

令和4年10月から、県内全域での窓口無料化を実現します。

また、保育所や学童保育室における待機児童ゼロを堅持するとともに、病児・病後児保育事業の対象者を小学校3年生までから小学校6年生までに拡充することで、共働き世帯への支援の充実を図っていきます。

教育分野の施策のうち、学方向上事業については、各学校の状況を考慮しながら、学方向上支援教員を配置し、引き続き指導を行っていきます。



病児保育所げんきキッズ

●「住んでよかった」

まちづくりの施策

市民生活を第一に考え、子どもからお年寄りまで、誰もが住み続けたいと思えるまちづくりを進めていきます。

まず、喫緊の課題である新ごみ処理施設の整備に関して

は、4月から行田羽生資源環境組合を設立し、施設整備に必要な計画の策定や調査の実施を予定しています。

今後は、組合が主体となつてごみ処理施設の整備を牽引していくこととなりますが、引き続き令和9年度の施設稼働に向けて、羽生市と緊密に連携し、安定的なごみ処理行政の実現を図っていきます。

次に、適切なインフラ整備による安全・安心の確保のため、橋りよりの長寿命化対策などを計画的に進めていくほか、県の通学路整備計画に位置づけて実施する通学路の安全対策については、令和4年度より、国庫補助金を活用して実施していきます。

また、地域防災力の向上のため、防災士資格の取得に対する補助制度の創設などを実施



新ごみ処理施設建設予定地

施していきます。

さらに、ゼロカーボンシテイ宣言に基づく脱炭素社会の実現に向けた取組として、市道の道路照明灯を全てLED照明に切り替えていきます。

●「行ってみたい」

まちづくりの施策

古代から現代に至るまで、多彩な歴史に彩られた行田市は、魅力あふれる観光資源、歴史資源、文化資源に恵まれています。資源を最大限に生かし、にぎわいに満ちた元気なまちを創出していきます。

まず、観光施策としては、行田おもてなし観光局を核とした、稼げる観光地域づくりをさらに推進していきます。

また、さきたま古墳公園内には、おもてなし観光局と共同で観光物産施設を含む(仮称)さきたま市場の整備を進めていきます。

八幡通りにおいては、これまで、県の補助金を活用して取り組んできたまち並み景観形成事業を単独事業として継続するとともに、行田はちまんマルシェの開催により、さらなるにぎわいを創出していきます。



行田はちまんマルシェ

【主な質疑】

○中学校給食費無償化事業

問 学校給食費を無償化する理由は。

答 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、子育て支援の施策として給食費を無償化するものである。

問 なぜ中学生だけを対象としているのか。

答 限られた予算を効果的に使うため、塾や習い事などの費用負担の大きい中学生を養育する世帯の家計を支援するため、中学校全学年の給食費を無償化するものである。

○スマート街路灯・LED街路灯整備事業

問 調光リモート操作とはどんな機能でどのようなときに使うのか。

答 スマート街路灯は遠隔操作により、個々の照明のオン、

オフや調光することができるとのことだが、誰がそのデータを何に使うのか。

問 日照時間データ収集を行うことだが、誰がそのデータを何に使うのか。

答 本事業は環境省所管の二酸化炭素排出抑制対策事業等補助金を活用するものであり、日射量等の気象データの取得が補助の条件となっている。収集したデータについては、国の2050年カーボンニュートラル、脱炭素化社会の実現に向けた政策に活用される。



LED街灯路

特別会計  
特別会計合計額は  
164億2千万円余

○令和4年度の各種特別会計  
予算 (全て原案可決)